



楽しくきれいに和やかに

5月21日（土）、戸倉公民館で「親子いけばな教室」が開催されました。

ペットボトルを花器にした初めての生け花体験です。センスの光る素敵な作品がたくさんできました。

特集 語り継ぎたい
わたしの戦争体験

《主な掲載記事》

各館の活動報告 …………… 2～3

特集 語り継ぎたい
わたしの戦争体験 …… 4～7

もっと知りたいふるさと …………… 8

文化祭のお知らせ
短詩型文学祭の作品募集
成人式のお知らせ

各館の活動報告

屋代公民館

「ゆうゆう学級」
楽しくスタート！

屋代公民館で開設しているゆうゆう学級に、令和4年度は42名の申込みがありました。

今年度は開講式を始まりに3回の市外研修を含め、全9回の開催を予定しています。

5月12日(木)に開講式、6月2日のフラワーアレンジメントの講座に続き、第1回市外研修を6月23日(木)に実施しました。

「駒ヶ根シルクミュージアム」では見学とストラップ作り、また伊那市「かんでんぱガーデン」では工場見学をしました。昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で市外研修は全て中止となりましたが、今年度は16名の参加があり、皆さんからは「心待ちに



開講式で越敬一先生のギターコンサートを楽しむ



かんでんぱガーデンの前で記念撮影

していた」との声が多くありました。

今後も「withコロナ」の中での講座開催に制限がかかることも考えられます。より多くの皆様に参加いただけるよう計画を立てますので、奮ってご参加ください。

埴生公民館

「すこやか学級」

始まりました

講師 宮坂 ケイ子

5月27日(金)、すこやか学級の開講式では大勢の皆さんと、有意義な午後のひとときを過ごすことができました。寺沢館長の挨拶の後、屋代駅前交番の上原所長に、高齢者を中心に深刻な被害が続いている「電話でお金詐欺」の手法や千曲市でのお金詐欺

発生状況等をお聞きし「社会全体で危機意識の共有が大切」と思いました。

その後、講師塚田實さんの「ハッピーつかだのマジックショー」が始まりました。軽快な音楽に合わせてアシスタントの人形のトラちゃん？の微妙な動きに笑いあり、楽しいマジックショーの中で、70歳くらいの刀と風船を飲み込んだ時は静けさの中のドキドキ感、そして拍手喝采の安堵感。マジシャンと会場の皆さんの一体感が素晴らしいと思えました。また、ハンカチや割り箸、輪ゴムを使ったマジックを皆さんで挑戦しました。輪ゴム2本を5本の指にはめて指の中で輪ゴムを移動するマジックは「できた?」「できない?」と笑いでごまかし、先生に教えていただきました。

終わりに先生から「祝・ご長寿・人生百年の時代これからもお元気で」というメッセージ



割り箸を使ったマジックに挑戦

セージと真つすぐなスプーンの絵が入った色紙をいただきました。マジックショーで楽しくハッピーな時間を過ごすことができました。

稲荷山公民館

唱歌の故郷と

善光寺御開帳

稲荷山 松林 德行

6月7日(火)、さわやか教室の市外研修に参加した。

最初に訪れたのは、中野市の中山晋平記念館。誰もが口ずさんだことのある童謡「シャボン玉」「證城寺の狸囃子」など生涯1770もの曲を作曲した中山晋平の故郷である。ハンドベルのアーチが「カチューシャの唄」を奏でる中、出迎えてもらった。狸の口からシャボン玉が出る演出に皆が子どものように喜んだ。ビデオで晋平の功績などを見た後、晋平が作曲に使ったピアノ等の展示物を見学した。

次に中野のバラ園「一本木公園」を見学した。バラが香る園内を、友達家族と散歩するのは気分最高。バラの季節は訪れる人が多い。

北信の観光名所である小布施町で栗三味の豪華版昼食をいただき、その後は北斎館、お庭拝見コースをそぞろ歩き。

午後は、須坂の「世界の民



美しいバラの前でパチリ



善光寺御開帳 回向柱までもう少し!

族人形博物館」を見学した。善光寺の御開帳に併せ、100体の雛人形と五月人形が同時展示。季節によりハートの形になる恋人の聖地でもある。

最後に「善光寺御開帳」の回向柱に触れ、善光寺参りと仲見世を散歩し、7年に一度の御開帳を満喫。

コロナ対策を万全に、盛り沢山で充実したコースを堪能し、楽しい研修ができた。

八幡公民館
分館事業に
いかがでしょうか？

6月12日(日)、八幡公民館では分館長と厚生部員を対象に、スマイル・ボウリングとポッチャを体験する分館役員研修会が開催されました。指導は、八幡地区のスポーツ推進委員にお願いしました。



笑いが絶えないスマイルボウリング

スマイル・ボウリングはボウリングをもとにして作られたユニースポーツです。普通のボウリングとは違い、ゲートを必ず通してピンを倒さなければいけません。ピンを倒すことを考える前に、ゲートに触れないように投げなければならぬので、うまくピンが倒れたときには思わずガッツポーズが飛び出し、マスク越しでしたが笑いが絶えませんでした。



ポッチャの点数を確認中です

ポッチャは、パラリンピックの種目として知られていますが、障害や年齢性別に関係なくどなたでも楽しめる競技です。実際に体験してみると、ボールのコントロールが難しく、思ったところに止まってくれないので、最後まで勝敗がわかりません。的のボールと投げたボールとの距離が目で判断がつかない場面ではメジャーが登場。わずかな差に一喜一憂していました。

閉会時、「ポッチャは奥が深い」「分館でもできそうだな」などの感想があり、「今後の分館活動でぜひ役立てていただきたい」とお願いをして終了しました。

3分館ずつ4チームに分かれて競い合いましたが、スマイル・ボウリングで1ゲーム終了ごとに、年齢や性別、地区も違う人たちの集まりが一つになって喜び合う姿がとても微笑ましく印象的でした。

戸倉公民館
親子いけばな教室に
参加して

望愛
のあて
春日

今日は、いけばな教室に行きました。

教室に行ったときは人が思っていたよりも、多かったのですが、少しきんちょうじました。

まず、ペットボトルに色紙やリボンでかざりつけをしました。きれいにできあがったからよかったです。

次に、花をペットボトルにかざりつけました。その前に先生から話があった。「水につけて、くきを切ると長持ちするよ」と言われてびっくりしました。

いよいよ、花のかざりつけがはじまりました。いろいろな花のしゅるいがある、とてもきれいで、



たくさんの親子が参加しました



初めてのいけばな体験です！

「こんなにいっぱい色とりどりの花でいけばなをするのかあ」と楽しみにになりました。作るのも楽しいけど、かんせいひんは、もっともっと楽しんで、ワクワクしていました。

かんせいひんは、とても上手くできました。きれいできてよかったです。

ほかの人のきれいだっけど、やっぱり自分たちのいけばなが一番です。またやってみみたいです。

上山田公民館
成人講座「かんたんダンス・はつらつ体操」
受講生

今年度は13名で、月2回金曜日の午前に、酒井美代子先生のご指導のもと、ダンスと体操を行っています。

先生から曲に合わせて、振り付けを教えていただき、昔なつかしい曲、若い人の曲、



はつらつ体操でいつまでも若々しく！

ゆっくりな曲、速い曲といろいろな曲に合わせて、楽しく踊ります。あっという間に時間が過ぎてしまいます。手足を動かし、振りを覚えるのには、自然と笑みがこぼれます。背筋を伸ばすことにも心がけています。

ダンスの後は、ヨガマットを使い、転倒防止のための筋肉作りのストレッチを教えてください。この体操を家で毎日するようになってから、体の調子がとてもよくなりました。

今は、コロナ禍で何かと大変ですが、楽しく身体を動かして、いつまでも若々しく、はつらつとした生活を送ることを目標にがんばっています。

特集

語り継ぎたい わたしの戦争体験

この特集の記事は、戦中・戦後の苦難な時代を生き抜いた方々に、体験された多くのことを文章にまとめていただいたものです。

戦争の悲惨さを、戦争を知らない世代に語り継いでいく契機となれば、と始めたこの特集に、今年も多くの方々から原稿をお寄せいただきました。感謝を申し上げますとともに、戦争体験記とおし、戦争の悲惨な真実を次の時代へ語り継いでいただければ幸いです。

戦争の時代を生きた

父と母

土口 山岸 俊夫

私の父は、大正3年、下高井郡瑞穂村（現飯山市）に生まれ、母は、大正12年、下高井郡延徳村（現中野市）に生まれました。

私は子どもの頃、母から「戦時中、空襲に備え、白壁の建物を黒く塗った。電灯の明かりが外に漏れないよう、窓や電灯を布などで覆った。」また、空襲警報、防空壕、配給制、満州開拓団などの話もよく聞かされました。母自身にも、大陸の花嫁として満州に渡る話があったようですが、家の事情で渡満しませんでした。その開拓団は万金山高社郷と言います、戦後、殆どの人が帰って来なかったと聞きました。高社郷へは瑞穂村からも入植して、昭和20年8月25日、およそ50人の開拓団員が佐渡開拓団跡で自決しています。瑞穂村からの入植者の中には

小林（のちの高山）すみ子さんもおられ、この日、2人の子どもを亡くしています。すみ子さんは奇跡的に助かり、過酷な逃避行の末、帰国することができ、この事件を『ノノさんになるんだよ』という本にまとめ出版されたことを知る人は多いと思います。

また、母の姉（私にとって伯母）は戦時中、隣村の農家に嫁ぎ、息子（従兄）が生まれた直後、夫（伯父）に召集令状が届き、伯父は生まれたばかりの我が子の写真を手に、松本第50聯隊に入営しました。

その後、伯父の出征が決まり、伯母は実母と息子を伴い、松本まで面会に行きました。伯父は昭和19年10月、フィリピンのミンダナオ島で戦病死したということが後に分かりました。所属部隊は全滅したため、お骨が帰って来ることはなく、小石が入った骨箱が届いたと聞きました。伯母は戦後、女手一つで、言葉で

は言い尽くせない大変な苦勞をして、一人息子を育て上げました。

飯島春光先生（土口在住）の講演で、先生が「戦争は知らない」という歌を歌われたことがありました。この歌は「戦争で父親を亡くした女性が父親を知らずに育ち、やがて結婚し母親になる」という内容ですが、私にとってこの歌は、戦争のために過酷な運命を強いられた、伯母親子の人生に重なり、この歌を聞くたびに涙ぐんでしまいます。

一方、父は「中国へ戦争に行った」「中国人の家から食べ物や家畜を奪って食べた」「中国人の家に火を点けたが、中々燃えなかった」「死体を見ても何とも思わなくなっていたが、倉庫のような広い建物の中で、無数の死体が並んでるのを見た時に、初めて戦争の恐ろしさを感じた」「鎖で手足を繋がれた中国人が、手首がちぎれるのではないかと思える程血だらけになって、必死に鎖を外し

て逃げようとしていた」などの事柄を、断片的に話してくれましたが、当時子どもだった私は特に深く考えることはありませんでした。父が亡くなって20年程経った頃、父の軍歴を調べるようになり、軍歴の抜粋したものを以下に記します。

昭和13年の軍籍表に未教育者「兵科一陸二官等級一補歩」として、父の名があります。

昭和14年5月 臨時召集、松本歩兵第50聯隊補充隊 応召

11月 大阪港出港、青島港（中国）上陸、迫撃

第五大隊第三中隊編入

12月 高平作戦参加

昭和15年4月 春季晋南作戦

参加

10月 塘沽港（中国）出

港、宇品港（広島県）

上陸、松本歩兵第50聯

隊到着

昭和18年11月 歩兵第115

補充隊応召

昭和19年7月 歩兵第73聯

隊 第一機関銃中隊

編入

昭和20年2月 高崎陸軍病院

へ「急性気管支炎」に

より入院



青島・塘沽 位置図

上記作戦の戦闘地域は、中国山西省山岳僻地地域で、八路軍の遊撃戦法に悩まされた結果、一般住民の多くを巻き込む「殺し尽くし、奪い尽くし、焼き尽くす」熾滅作戦を繰り広げ、それは中国では、三光作戦（殺光・搶光・焼光）ともいわれ、大きな非難を浴びたようです。また、この作戦では「赤（ジフエニールシアンアルシン）」「黄（イペリット）」等の化学兵器も使用されていたようです。

父は生前、ひどい咳に悩まされていて、食事中、仕事中、就寝中さえも、いつも辛そうに咳をしていました。病院に通ってはいいましたが、咳が軽減することはありませんでした。父が参加した戦闘で化学兵器が使用され、高崎陸軍病院に急性気管支炎で入院していたことから、それが原因ではなかったかと推測できま

今回、原稿依頼をいただいたのはロシアとウクライナが戦争状態にあることと、我が国の終戦記念日が近いことが関係していると考え、お引き

遺児としての小学校時代
杭瀬下 小林 俊一

ロシアのウクライナ侵攻が、かつての大日本帝国による侵略行為と類似して見えるのは、私だけではないと思います。軍拡競争の果ては世界の滅亡であり、人類が取り組むべきは軍事力の増強や核保有などではなく、すべての国が軍事力を放棄して戦争のない平和な世界を目指すことだと思います。

すが、今となつてはそれを証明することはできません。また、父からは戦時中の写真や勲章などを見せてもらったことがありませんでした。北信濃の山村で農業に就いていた当時25歳の父が、中国大陸に送り込まれ、そこで何の罪も恨みもない中国の兵士と一般市民を燼滅作戦と化学兵器で苦しめ、自らも化学兵器の後遺症と戦争の記憶に苦しめられ、とても勲章を自慢したり、当時の写真を見せることなどできず、まさに「墓場まで持って行った」のだと思います。

母は就職先を長野市の文具店に決め、朝早く起き、食事の支度等を行ってから勤めに行きました。当時は自動車通勤でした。母は自治体・学校・団体等への納品あるいは集金

た。私たちが入学時期に併せて再度信州に戻りました。私たちにっては大きすぎた家を他人に貸し、私たちは自宅西北隅にあった鶏小屋を改造して6畳くらいの居間を作り、そこを自分の自宅としました。

「中国の牡丹江から広島県の呉港に一旦帰国しその場で南方に向かい出帆するが、行き先は口外できない」旨のはがきを受け取ったと私が3歳くらいに聞いたように思います。後に判明したことです。父はボルネオの死の行軍に参加、キナバル山の麓で戦病死しました。

受けをしました。さて、私が生を受けたのは昭和19年、横須賀の海軍病院と今は亡き母から聞いております。すでに私の父は出征して内地にはおりませんでした。私が誕生した時点で父の居場所は分からなかったようです。

また当時はお米の配給制度が行われており私たちのような非農家は配給所でお米を手に入れられなかったと記憶しています。そのため、近くの親戚に繁忙期には手伝いに行き、夕食に出てくる生卵が貴重な蛋白質補給になりました。

当時の児童たちの格好は、ランドセルというようなものはなく、風呂敷であったように記憶しています。靴を履いている児童はクラスに1人ぐらいで、あとは下駄か草履でした。当時は、進駐軍が児童の頭髪にDDTの消毒を年に2回ほど行っており、所謂「毛じらみ」対策でした。学校には水道もなく、手押し型のポンプを利用していま

に回っていたようです。当時はバスが主でしたが運転間隔が非常に長いので自分の足を使っていたようです。その間、私は遊びを中心にしており、勉強をやった記憶はありません。途中で空腹になり、母が大事にしていた煮干しを勝手から持ち出し、盗み食いをしていました。たまには、煮た芋等があり空腹を満たしました。母の帰りは8時過ぎが多

く、私は親の忠告を無視して屋代駅まで迎えに行き、ベンチで寝てしまうこともしばしばでした。私は母と帰りに手をつないで帰宅することが非常に嬉しく楽しかったのです。



昭和31年の杭瀬下小中学校（『埴生小学校百周年記念誌』）

した。私の通った小中学校は「杭瀬下村立杭瀬下小中学校」であり、校門の北側には、今では見られませんが二宮金次郎の石像がありました。学校の楽しみは、校庭運動会と学芸会であったと思います。今となつては戦争遺児として惨めな思いは全くありません。皆が生きるのに精一杯であつたからだと思わざるを得ません。

後年、厚生省と日本遺族会が開催した、「南方面巡拝団」に参加し、現地の近くまで行きました。当時の悲惨さを感じることはなく大分整備がされていきました。

第20回 更埴地区文化祭

参加者募集!

期 日 11月12日(土)～13日(日) 会 場 信州の幸あんずホール(更埴文化会館)

作品展示・舞台(発表される方)

申込方法 公民館にある「申込用紙」に必要事項をご記入の上、期日までに提出してください。

申 込 先 屋代・埴生・稲荷山・八幡の各公民館

申込締切 9月9日(金)

申込範囲 更埴地区にお住まいの方、またはお勤めの方で構成する、グループ・サークル等(学生は除く)。

※詳細は各公民館へお問い合わせください。※新型コロナウイルス感染拡大状況を総合的に判断し中止する場合があります。

【屋代公民館 Tel 272-0234 埴生公民館 Tel 272-0055 稲荷山公民館 Tel 272-1009 八幡公民館 Tel 272-1076】

戦前・戦中・戦後を
生き抜いて

稲荷山在住・大正14年生まれの女性に、お話を聞きしました。

【子どもの頃のくらし・学校の様子はどうか】

私は上諏訪の末広町に生まれました。家はモーターを扱う仕事をしていたので、4人兄弟の2番目です。物がなかった時代、小学校の頃、母の帯をほだいて足袋を縫い、わらじを履いて遠足に行ったものです。夜は翌日のお米に混ぜて炊く(量を増やす)ために野菜を細かく刻むのが私の仕事でした。

戦争が始まると、学校生活は勉強そっちのけで、桑の根を抜いて畑にしたり、胴着をつけた元軍人を相手に、竹やりを突き、急所(心臓)の位置を教わりました。

【戦争が激しくなった頃から、戦後の様子は】

女学校に進んでからは、勤労奉仕で夏休みには泊まり込みで兵隊の服を縫ったりしました。挺身隊に入った友達は満州に渡り、開拓団の子どもの教師をしていたそうです。

諏訪には軍需工場が多くあり、線路から何分以内の家は疎開しなくてはならず、家財道具を山の畑の中に埋めて茅

野に疎開しました。後に掘り起こしましたが、埋めたものは誰かが掘り出したらしく見つかりませんでした。

2つ上の長兄は、徴兵検査の後すぐに召集され、満州の牡丹江の部隊に入りました。その後ソ連に連行され、極寒の地で生き延び、復員して女学校の時の私の親友と結婚しました。

青春はありませんでした。赤や白、目立つ服は禁止されました。母親の着物をほだいて染め直し、手縫いの服を着ていました。戦後は進駐軍に連れて行かれるからと、女子に見られないように短髪にし、家から出ないように親からきつく言われていました。

【ご主人とのご縁は】

当時は当たり前のことでしたが、親戚と親が決めた。写真を見せてもらいましたが、結婚前に一度諏訪の家にあいさつに来た時に会っただけです。昭和23年、上諏訪から稲荷山まで髪結いさんと一緒に汽車で来ました。稲荷山駅に到着しましたが誰にも迎えに出てもらえず、着物姿で花嫁衣裳やカツラなどの大きな荷物を抱えて歩いて来たのです。翌日、家で結婚式をしました。稲荷山では遠くの山から聞こえる汽車の汽笛を聞いては諏訪を思い出していました。

【嫁いでの生活は】

小柄な夫は徴兵検査を通過

し、兵役に就いても、「筋力が弱い」と復員させられることを何度か繰り返し、最終的には「整った字を書く」ことを見込まれ、東京の本部にいたそうです。記録係・通信係のようなものでしょうか。終戦後の東京で、バイクを使った仕事をしていた関係で、稲荷山で自転車屋を始めました。9つ上の夫は世帯主が復員していない家庭や、母子家庭など困っている方からは修理代をもらわない、という人のいい夫でした。生活は楽ではありませんでしたが、2人の男子に恵まれました。

【長寿の秘訣は】

小学校5年生の時に、友達に誘われて、屠殺場に行きました。その時見たショックで、それ以来肉類は食べていません。小魚、キノコ、豆類、発酵食品、煮物が好きで、3食自炊しています。

80歳頃、和紙人形を習いに長野まで通いました。40体ほど作りましたが、最近は友人にあげたり処分し、家にはお気に入りの2体を置いています。毎日1時間の散歩も欠かしません。

今年の4月、近所の方に誘われ、公民館の成人講座を受講しています。歌と軽運動の2つの講座を受けています。月に1回ですが、講座で人と会ってお話することが、私の元気につながっていると思います。



お気に入りの和紙人形

飢えとの戦い

新山田村 照一

昨年引続きご寄稿いただきました。

私は日支(中)戦争が行き詰ってきたころ、東京におりました。

東京には戦地から引き揚げてきた兵隊さんと、田舎に強制疎開されていた子どもたちがどっと戻ってきましたが、家族の生死も行先も分からず、食糧をどうやって配給するか名案の出ようもない状況でした。

上野駅の地下道で暮らした虱だらけの子どもたちは列車が着くと何か食べ物を買おうと集まってくるのですが、改札を抜けた人々は顔をそむけて足早に去りました。皆、自分のことだけで精一杯だったのです。

第51回 上山田文化祭

会場：上山田文化会館 ほか

11月5日(土)

展示発表…午前9時～午後5時
ふれあいのど自慢…午後3時～午後5時30分

11月6日(日)

展示発表…午前9時～午後3時
囲碁大会…午前9時～午後4時
青空市…午前9時30分～午後1時30分
舞台発表…午前10時30分～午後3時

ふれあいのど自慢参加者募集

3年ぶりに開催予定です。ふれあいのど自慢に参加してみませんか。

【申込方法】 公民館にある「申込用紙」に必要事項をご記入の上、期日までに提出してください。

【申込先】 上山田公民館(上山田文化会館内)

【申込締切】 9月25日(日)

※詳細は上山田公民館へお問い合わせください。
※新型コロナ感染拡大状況を総合的に判断し中止する場合があります。

爆撃を受けなかった田舎でも、食料不足は深刻でした。父がダイナマイト製造社に転職し家族で山口県に移りましたが、終戦間もなく、会社から「業務縮小により出社に及ばず」という通知と、「ひと月以内に社宅を明け渡せ」という通告を受け、軍需工場勤務者に対して出ていた特別配給も無くなりました。

住居と収入とが突然無くなり途方に暮れた母が見つけてきたのは、朝鮮から徴用されて帰国した人が住んでいた家でした。4部屋のうち北側2部屋は電気がなく真っ暗でじじめ。台所は土間、薪で焚く竈が2つ、水道はなく、30リットルほどの湧水から水を天秤棒で担ぎ上げる。トイレは戸外の牛小屋の隣、というこれまですべて全く違う環境での生活が始まりました。配給が減った我が家にとってありがたかったのは、小さな水田と50坪ほどの山畑が付いていたこと。牛小屋は改造して鶏を飼うことにしました。私は、学校から帰ると薪拾いと鶏の餌の草集め、水汲みと畑作り、主食は薄い粥に芋と大根を刻み込んだもの。おかげはカボチャとサツマイモの葉の茎の煮付け、川で釣ってきたハゼやフナ丸焼き、たまには雄鶏をしめた肉。いつも私は空き腹で、まだ熟していないのキュウリやトマトを畑の中でかじって飢えをなだめています。

秋になって稲を刈り、近所の農家に持ち込んで、教わりながら手作業で脱穀、足踏み杵と臼でモミすり、唐箕でモミ殻を吹き飛ばし、できた玄米を一升瓶に入れ、棒で搗いて精米。出てきたヌカは鶏の飼料にする。電気も機械も使わない原始的な方法で、ようやく仕上げた僅かな米を、お粥でないご飯にして家族一同で食べた時は感動でした。もちろんそれだけで主食が足りるわけはありません。

父は元陸軍飛行隊兵舎を進駐軍向け宿舎に改造する作業に、片言の通訳として雇われ、給料代わりにアメリカ製の石鹸を貰って、当時黒ダイヤといわれ好況に沸いた炭鉱に売りに行きました。母は自分の着物と姉の結婚用着を農家に持ち込んで米に交換。「娘の結婚衣装が入手できた」と農家で喜ばれました。姉は「これからは和装より洋装よ」と割り切り上京。目黒ドレスメーカー女学院の在学中から、放出された軍隊毛布や古着を、東京で流行している「コートやドレス」に仕立て直す注文を取って、私の学費を稼ぎ出してくれました。

飽食時代の今、想像するとは難しいでしょうが、ウクライナの現状は明日の日本かもしれないかもしれません。次代を担う若い世代が、戦争について真剣に話し合う時ではないでしょうか。

第29回 戸倉文化祭

会場 戸倉創造館

<p>● 作品展示の部 11月19日(土) 午前11時～午後4時</p> <p>11月20日(日) 午前9時～午後4時</p>	<p>● 舞台芸能の部 11月20日(日) 午前9時30分～午後3時</p> 
---	---

問合せ先 戸倉創造館 ☎026-275-6700

※新型コロナウイルス感染拡大状況を総合的に判断し中止する場合があります。

市民講座を開催しました!

6月25日(土) 信州の幸あんずホールでテレビやラジオで活躍されている荻原博子氏を迎えて「くらしと経済」をテーマに市民講座を開催しました。

329名の参加者は、荻原氏の普段の生活の中でできる知恵や工夫の講演に熱心に耳を傾けていました。また小諸市出身との自己紹介があり、和やかな雰囲気の中、質問も活発に出され、充実した講座となりました。

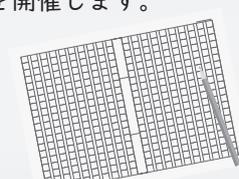


講演をする荻原博子氏

短詩型文学祭の作品募集

千曲市と坂城町で構成する更埴公民館運営協議会では、第27回更埴地区短詩型文学祭を開催します。応募要領と投稿用紙は最寄りの公民館に用意してあります。入賞者には、表彰状と記念品を贈呈します。奮ってご投稿ください。

【募集期間】 7月1日(金)～8月31日(水)
【募集部門】 短歌・俳句・川柳・現代詩
【投稿料】 応募用紙一枚につき400円(小学生の部・中高校生の部は無料)
【投稿先】 各公民館



令和4年度 千曲市成人式のお知らせ

日時 一日目：令和5年1月7日(土) / 対象地区(屋代小・東小・治田小・八幡小)
 二日目：令和5年1月8日(日) / 対象地区(埴生小・戸倉小・更級小・五加小・上山田小)
 ○受付 午後1時～ ○式典 午後1時30分～(両日共)
 ※新型コロナウイルス感染予防のため地区別に2日に分けて開催します。

会場 信州の幸あんずホール(更埴文化会館)

成人式対象者 平成14年4月2日から平成15年4月1日の間に生まれた市内に住所がある人と、市内の小学校に在籍した人です。*対象者には11月中旬に案内状をお送りします。

問い合わせ先 八幡公民館(成人式当番館) Tel 026-272-1076 または、最寄りの公民館まで。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況を総合的に判断し中止する場合があります。



もっと知りたいふるさと

87

戌の満水で被災した福井神社と芝宮神社

※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

寛保2（1742）年の戌の満水は千曲川流域に大災害をもたらした。福井神社は埋没し、芝宮神社は流失した。

福井村と上戸倉村は隣接した村だったが、正保の初め（1644年頃）、北国往還に上戸倉宿・下戸倉宿が開設されたとき、上戸倉村の人々は上福井に集団移住して、上戸倉宿を造った。

福井村地内上戸倉村というめずらしい関係が続き、明治7（1874）年に両村は合併して磯部村となった。

福井神社

福井村では、産土神として建御名方命を上福井宮林の地に祀り、諏訪大明神と称した。創建年代は不明だが、故滝沢利平氏は元中年代（1384、1392）と推定している。

戌の満水は小滝沢の土砂を押し出し、社地・社殿が埋没した。ご神木の杉の大木も根元に土砂が堆積した。そこで地続きの裏山の斜面を隣地の村持ちの山と地替えして、延享4（1747）年に現在地に社殿を再建した。このとき近くの字市神にあった市神社も同じく洪水で流失したの

で、祭神の事代主命（えびす様）も合祀した。

その後、拜殿が造営され、何回か造替も行われた。現在のもものは、平成22年に新築されたものである。

ご神木の杉は、いつしか立枯れとなり、昭和32（1957）年に伐採され、その切株が残っている。樹齢400年余、直径77cm、洞の深さ3mほどである。

芝宮神社

下戸倉村の俳人、虎杖庵三世宮本八朗が天保10（1839）年、子孫に書き遺した「宮本文書」によると、芝宮明神は昔、上戸倉村・下戸倉村と福井村の三村が一体だった頃、諏訪の建御名方命を戸倉村の惣社として新戸倉温泉の芝

宮に勧請した。芝宮の地は元和8（1622）年、上戸倉村・下戸倉村に村分けされたとき上戸倉分となり、惣社芝宮明神も上戸倉村の産土神となった。

戌の満水でこの芝宮明神は社地・神宝を悉く土中に失った。その後、上戸倉の玉井佐兵衛が社地を縮めて畑にしようとした際、神鏡一面が掘り出された。

神鏡は以後、大切に保管した5人の手を経て、昭和56年芝宮神社の立替工事完成祝の際、最後の保管者宮本家から24年振りに芝宮神社に奉還された。

福井神社と芝宮神社

戌の満水から52年を経た寛

政6（1794）年、上戸倉村の人々は、福井神社の社地の一部を地替えしてもらい、字宮林の福井神社の隣に芝宮神社を遷座した。

このとき上戸倉村と福井村の両村は一緒に社殿を造り替えることとなり、寛政9（1797）年まで4か年にわたって、石段・石橋・石垣・広庭・社殿などを造営した。以来、何回かの修復はあったが、両社仲良く並んで今日に至っている。

かつて両神社の氏子は、福井村が福井神社、上戸倉村が芝宮神社であったが、戦後磯部区（上戸倉と上福井の人々が入り交じっている）の住民はすべて芝宮神社、福井区はすべて福井神社の氏子になった。また、春秋の祭りは両社同日に行われ、宵祭には雄獅子の福井神楽と雌獅子の芝宮神楽が相次いで奉納さ



福井神社鳥居をくぐって進むと芝宮神社の鳥居がある

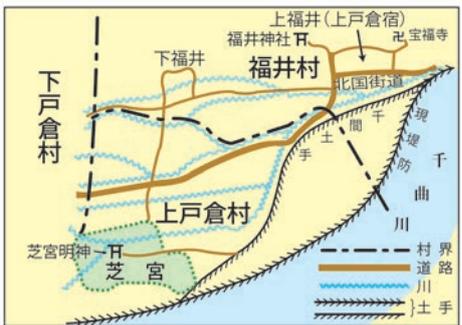


左：福井神社社殿 右：芝宮神社社殿

編集後記

戦後77年、戦争を体験した人たちが少なくなる中で、公民館報が特集「戦争体験」を長く組んできたのは、戦争の悲惨さを後世に伝えたいという強い思いの表れです。

30年以上前に亡くなった私の父も海軍に召集され南方に赴き、復員したときには面影がないほど痩せて、「体の中には銃弾の破片が残っていた」と祖母から聞きました。



下戸倉村・上戸倉村・福井村の村界図

多くの命が失われた戦争で、戻って来られただけでも幸せと思わなければならないでしょう。多くを語らなかつた父。今となつては父の戦争への思いを計り知ることはできませんが、テレビや新聞でウクライナの惨状を見聞きするたび、戦争の悲惨さと理不尽さを改めて痛感し、戦争は二度と起こしてはならないとの思いを強く感じています。

（屋代・Y）